

(参 考)

第 1 1 回検討会（1 月 7 日開催）において、整理した論点等

論点 1 ; 『電力需給構造の変化をどう見るべきか。』

(1) 国のエネルギー需給の見通しはどうか。

電力等のエネルギー消費は果たして今後も伸びると言えるのか。

(2) 電力の自由化は今後どうなっていくのか。

電力自由化がどのように進むのか。

電力が自由化される中で電力会社の電源立地はどのようなのか。

論点 2 ; 『新エネルギーの可能性はどうか。』

(1) 新エネルギーはどこまで導入できるのか。

新エネルギーは補完的な活用にとどまるのか。

新エネルギーの導入を促進するには何が必要か。

論点 3 ; 『原子力発電の今後の位置づけをどう考えるべきか。』

(1) ウランの安定供給は可能か。

過去の歴史からみて、本当に安定供給していけるのか。

確認可採埋蔵量をもってエネルギー資源枯渇を問題とすべきか。

(2) 原子力発電は地球温暖化防止に役立つか。

既存炉が廃炉になった後の対策はどのようなのか。

C O P 6 ボン合意において、原子力がなぜ京都メカニズムに取り入れられなかったのか。

地球温暖化防止対策推進大綱の見直しの行方はどのようなのか。

(3) 原子力発電は経済性に優れているか。

国のコスト計算の前提条件は妥当なのか。

電力自由化の行方が不透明である。

論点4 ; 『核燃料サイクルをどう考えるか。』

(1) 核燃料サイクルの経済性に問題はないか。

国のコスト計算の前提条件は妥当なのか。

電力自由化の行方が不透明である。

(2) 余剰プルトニウムは生じないか。

プルトニウムの需給見通しが不透明である。

全量再処理路線と余剰プルトニウムを持たない国際公約は相反しないのか。

(3) エネルギー資源の安定供給につながるか。

プルスーマルはどの程度のエネルギー資源の節約になるのか。

高速増殖炉の実現可能性はどうか。

高速増殖炉が完成しない段階での再処理は、資源の安定供給につながるか。

(4) バックエンド対策の見通しはどうか。

放射性廃棄物の発生量は削減できるのか。

現行制度においてバックエンド対策は可能なのか。

論点5 ; 『エネルギー政策決定はどのようにあるべきか。』

(1) 政策決定上の課題は何か。

三県知事提言以降、国の取組みはどのように進められたのか。